

## 第35回甲賀市水道事業審議会 概要報告

1. 開催日時 平成30年7月18日(水) 午後2時00分から午後3時50分まで
2. 開催場所 甲賀市役所 別館1階 会議室101
3. 議題
  - ・審議  
平成29年度甲賀市水道事業会計決算について
  - ・報告  
水道事業の状況について  
第2次甲賀市水道ビジョン策定について
  - ・会議内容の公開、非公開について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
  - 委員 村山委員、大治委員、永野委員、松井委員、風岡委員、  
高橋委員、植西委員、奥出委員、高山委員、小野委員  
以上10名〔全員〕
  - 事務局 上下水道部 小嶋部長、家森次長  
上水道課 神山課長補佐 高橋係長、平子係長  
上下水道総務課 大谷課長、西村課長補佐、北村課長補佐、  
中辻係長 岡崎係長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
  - 資料1 平成29年度 甲賀市水道事業会計決算について
  - 資料2 水道事業の状況について
  - 資料3 甲賀市水道事業ビジョン策定について

### 8. 議事の概要

#### ○出席委員数の報告

出席委員は10名中10名で、委員の3分の2以上の出席であることから、甲賀市水道事業審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

## ○審議

事務局 平成29年度甲賀市水道事業会計決算について資料に基づき説明

(質疑)

委員 平成29年度に布設替された延長はどのくらいか。

事務局 平成29年度の50mm以上の新設管として約9,000mの入替をしました。

委員 耐用年数を越えた老朽管はどれくらいあるのか。また、計画的に老朽管の布設替をしていけばどの時期に完了するのか。

事務局 大体40年くらい先まで見越したなかでの更新で、平成30年度予算から整備をしていきます。平成30年度以降は毎年10億円程度更新していく計画です。

委員 アセットマネジメントに沿った形であるのが計画的にはいいが、健全経営の中で進めていけないといけないのでそこはどうなのか。

事務局 アセットマネジメント策定時に収支見通しを立てており、現在の水道料金体系で2030年に資金不足になる見通しであるため、それまでの間に料金の改定をお願いしなければならないかと考えています。

委員 水道管は耐震化というのか、長寿命化というのか、長くもつ材料による布設替という形になっているのか。

事務局 特に幹線など重要な管路については耐震管での布設替を行っています。

委員 平成28年度に対し平成29年度については、配水量と有収水量が5%程落ちてきているが原因はどのように考えているのか。

事務局 水口地域、信楽地域、甲南地域の配水量が前年と比べて大きく増加していることが主な原因です。反対に同じ地域での有収水量が低下したということから有収率が著しく低下したというものもあり、原因の特定について、配水系統が広域であったことから漏水箇所の発見など、原因の究明が簡単には進まなかったものと認識しております。

委員 1年間を通して日常から有収率がどれだけかを把握しているのか。

事務局 配水量が増えている傾向は把握しているが、配水系統の特定というのが非常に困

難です。ピンポイントにこの場所で漏水しているということが掴みにくいという現状で、漏水調査で地道に修繕していくことになります。

委員 1年が終わって、水口地区であるということが分かったのか。底の見えない部分を根本的に直さないといけないが、聴診器か何かはないのか。

事務局 漏水調査では、音で聞いて調査をしていくという形をとっています。

委員 市民からの通報も音で聞いているのか。

事務局 いいえ、見えない部分について音で判別調査をしています。

委員 有収率を1%改善すると、どれくらい収益につながるのか。

事務局 1%ですと、給水原価が189円55銭ですので、約2,100万円となります。数字上でいくと5%対前年から落ているので、約1億円の費用の増加です。それだけの経費負担になっているということです。

委員 1%で2,000万円、2%なら4,000万円の経費負担である。来年の漏水を発見する予算はどれだけみているのか。

事務局 来年度の予算編成につきましてはまだこれからの編成作業となります。

委員 予算計上する予定か。

事務局 はい。例年より広範囲の調査を実施したいと考えております。

委員 2030年の水道料金の値上げで済むのか、それとももっと前倒しで値上げを市民の皆様をお願いをする方向でいくのか。

事務局 見込みでは、同じような傾向で配水量も下がり経費負担が増加しているということになりますので、このようなことが続けば、この見通しよりも早く資金不足が訪れてくるかと考えます。

委員 これを改善しない限り料金改定は説得力がないが、どのように考えているのか。

事務局 老朽管の更新を平成30年度からは今まで以上に行い、漏水調査にも力をいれて

早く漏水箇所を発見して直していきます。

委員 漏水しているのは100%老朽管が影響しているのか。

事務局 いろいろありますが、傾向的として古いところが破裂等も多いです。

委員 老朽管の箇所はわかっているので、そこを重点的に調べたら漏水箇所もわかるのではないのか。

事務局 布設年度を見ながら調査の箇所を検討していきます。

委員 旧町毎の有収率は出ているのか。そこで水口地域と甲南地域と信楽地域が、有収率が悪く漏水の可能性があるという把握をしているのか。

事務局 有収率の町別の数字を、お伝えいたします。水口地域は85.36%、土山地域は78.48%、甲賀地域が85.05%、甲南地域が88.99%、信楽地域が69.37%です。

委員 水口地域85.36%は平均の82.73%よりも上回っているということか。

事務局 対前年比で落ち幅、配水量が大きかったということです。

委員 土山地域と信楽地域は自己水なので多少放っておいても良いという意味合いで考えておられるのか。

事務局 そういう訳ではございません。土山地域については自己水が豊富ではありますが、信楽地域については水源が潤沢ではなく、これから公共下水道の整備が進んでいくというなかで水道水の需要が増えていくので、下水道に伴う水道管の更新も含めて早々に手立てをしていきたいということです。

委員 水口第一水源地を休止され、今後は寺庄水源地も廃止の方向ということだが、災害時や給水制限に地域間の整備をすることにより、効率的なことにつながるという記載もあり、水源地を閉じるというのは逆ではないのか。

事務局 県水道企業庁の方でも連絡管の接続等をされており、何か事故があったとしても対応できる措置を取っていただいております。また緊急連絡管の整備もすすみ、施設の統合による自己水の削減という部分については、一定大きな改善は図れている

と認識しています。

また、地域連絡管ということで土山から水口に連絡管がつながり、土山の土野と水口の今郷の間に管を布設しました。

委員 水口第一水源地は全く維持保守もされていない状況か。

事務局 水口第一水源地にかかる城山低区配水池は、城山の中腹に位置し老朽化しており、地元から災害時に崩落等が心配なので、使わないようにして欲しいという要望もあり、現状では県水でまかなえているため、一旦休止している状況であります。

委員 使っていないということは、その減価償却は計上が無いという状態になっているのか。

事務局 減価償却はしていますし、起債を借りているのでその償還は続いています。

## ○報告

事務局 「平成30年度工事契約状況について」、「第2次甲賀市水道ビジョン策定について」を資料に基づき説明

(質 疑)

委員 13箇所の工事を予定されているが、これはアセットマネジメントに則った形になっているのか。

事務局 はい。アセットマネジメントで位置づけられたものについて更新を計画したものです。

委員 平成28年度に、石綿管の延長が7キロほどあると聞いたが、早いうちに手を打つなど計画はされているのか。老朽管更新で7、8箇所予定があるが、石綿管を更新する工事は含まれているのか。

事務局 平成30年度に、石綿管が残存している北脇地区を改修の対象としています。

委員 平成29年度末での石綿管残存距離はどのくらいか。

事務局 平成29年度末の石綿管の残存距離は、6,159メートルです。

委員 特に漏水で石綿管の数が多いという訳ではないのか。

事務局 そういう訳ではありません。

委員 平成30年度の工事概要で山上地区の学校給食センターの工事が入っていないが平成31年度になるのか

事務局 山上地区の給食センターに伴う配水管の布設につきましては、教育委員会で予算措置しています。上水道課では技術協力という形で施工監理にかかわっています。

委員 平成30年度の契約の総合計は概算でいくらぐらいか。

事務局 約8億円です。

委員 舗装復旧工事も含めてか。

事務局 はい。

委員 甲賀市の場合は徴収など外部委託されている人も合わせて水道事業に関わっているのは何人ぐらいか。

事務局 40人弱です。

委員 今後、湖南省などの他市と合併していくことは、ないとみたほうがいいのか。

事務局 水道事業の広域化については、県企業庁が中心となって、担当者レベルで勉強会という形で進んでいます。水道法の改正の法案も進められており、もう少し進捗が変わってくるかもしれません。

委員 一気に進まないのは、水道料金や給水区域などの面もあるのか。

事務局 正直そこまで議論が至っていないのが現状です。第一歩として広域化あるいは連携化ということで、できることから始めているところです。

委員 この間のような地震や台風でライフラインがストップしたときの対応はちゃんとできているのか。

事務局 甲賀市は近隣の自治体と応援協定を締結しており、有事の際には応援給水に来ていただける体制となっています。未曾有の災害が発生した場合の対応については日本水道協会が本部となり、派遣依頼がくるという流れになっています。

## ○会議内容の公開又は非公開について

事務局 本日の会議内容の公開・非公開は、本日配布した資料等にも個人情報等の非公開にしなければならない案件は含まれていませんので、すべて公開としたいと思っております。なお、前回同様、議事録の発言につきましては、個人名ではなく、委員と記載して公開させていただきます。